

最後まで闘い続ける

ミャンマーの軍事クーデターにより、
日常は突如奪われた――。

指名手配となった映画監督が

自身の逃亡生活と決意を記録した

セルフドキュメンタリー

夜明けへの道



監督・脚本・撮影：コ・パウ

プロデューサー：アウンミンナイン

編集：ドーナマウン メムテッウイン コ・ビョー

音楽：コ・パウ コ・ビョー 歌手：ミンモゴン コ・パウ

英題：RAYS OF HOPE 協力：北角裕樹 配給・宣伝：大衆

【2023年/ミャンマー / 101分 / 16:9 / ステレオ / ミャンマー語】 ©Thaw Win Kyar Phyu Production



yoake-myanmar.com

もう後戻りはできない。
これを「最後の民主化運動」とするために

かつてビルマと呼ばれたミャンマーで、2021年2月1日早朝、国軍によるクーデターが発生。ミャンマーの現代史においては3回目となるクーデターだ。1回目は初めての軍政時代を導入した1962年3月、2回目は第二軍政期のきっかけとなった1988年9月である。そして2011年、長きにわたる軍事政権から民主化に大きく舵を切った。その後の10年、市民は自由と民主主義への希望を抱き始めていた。しかし今回のクーデターにより、一夜にして世界は転覆した。軍は前年の総選挙での不正を口実に、アウンサンサンスーチー国家顧問ら民主派政権の幹部を拘束、非常事態を宣言して全権を掌握。反発した市民の抗議デモは武力闘争に発展し、人々の自由と平穏な暮らしは崩れていった。3年が経つ現在でも一部少数民族と連携し、国軍との戦闘が激化している。地元人権団体によるとクーデター後、4500人近い市民が国軍に殺害され、計約2万6000人が拘束、避難民は約230万人にのぼる。

ディストピアとなったミャンマーで闘い続ける映画監督。 指名手配、ジャングルでの潜伏生活をリアルに記録!

ミャンマーでは半世紀にわたる軍事政権が終わりを迎えた2011年以降、言論の自由が拡大。映画監督コ・パウは自由な時代の映画製作に動む一方、COVID-19により外出が困難になると、家族で製作したコメディ動画をSNSへ投稿。総フォロワー数は100万人を越え、厳しいロックダウンに苦しむ市民を元気づけた。そんな中、軍事クーデターが勃発。コ・パウら芸能人は街に出て抗議デモを先導したことで指名手配される。国軍の残虐行為は次第にエスカレートしていき、デモ隊を機関銃で一掃するなど容赦ない弾圧に乗り出す。国軍から追われる身となったコ・パウは、民主派勢力の支配地域に逃亡し、ジャングルでの潜伏中に短編映画『歩まなかった道』(2022)を製作。そして現在も潜伏生活が続ける中で、自らのリアルな姿を撮影したセルフドキュメンタリー映画『夜明けへの道』を製作した。

人間としての尊厳を失った市民が、常に監視され、自己表現が制限される社会。現在でもミャンマーの人々は毎日、人道に対する罪を目撃し続けている。増え続ける死者数と高まり続ける拘留者率は、まさにディストピアである。軍に都合が悪い情報を発信するものはすべて処罰の

対象となるため、国内外に情勢を伝えることは困難だ。それでも、ミャンマーに目を向けてほしい、そして民主化の時計の針を巻き戻すまいと、命がけで公開する本作はコ・パウ監督の今なお続く闘いと決意の実録映画だ。

夜明けへの道

暗闇にもいつか
光が射すように――。



【2023年／ミャンマー／101分／16:9／ステレオ／ミャンマー語】 ©Thaw Win Kyar Phyu Production

yoake-myanmar.com

4月27日(土) 緊急公開決定!
全国共通特別鑑賞券1500円(税込)発売中

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿ドコモショップ左入ル
新宿 K's cinema
03(3352)2471 www.ks-cinema.com
各回入替・整理券制

